

令和5年度 西城小 学校努力点

学ぶ楽しさ、できる喜びを感じることができる児童の育成
～ 協働的に学ぶ「ピア・ラーニング」に重点を置いて～

6年生のめあて

学習の内容について進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとする。

単元

理科 「土地のつくりと変化」

学ぶ楽しさ・できる喜びを感じることができる工夫

① 単元の初めに体験活動を行い、子どもたちの疑問から授業をつくる

子どもたちにとってあまりなじみのない「地層」や「地面の下の様子」について興味をもたせるために、化石発掘体験を行う。化石発掘体験を通して出てきた疑問をもとに、授業を構成する。

② 仲間とのピア・ラーニング（協働学習）

学習問題を解決するのに必要な情報をもっている子とピア（同じ目的をもつ仲間）をつくり、情報交換をしたり、一緒に問題解決に取り組んだりすることができるようにする。

授業の様子

「土地のつくりと変化」(11月)

単元のはじめに、栃木県的那須塩原市から取り寄せた、「化石の原石」を割って、化石発掘体験を行いました。



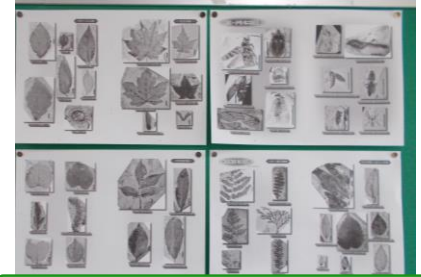
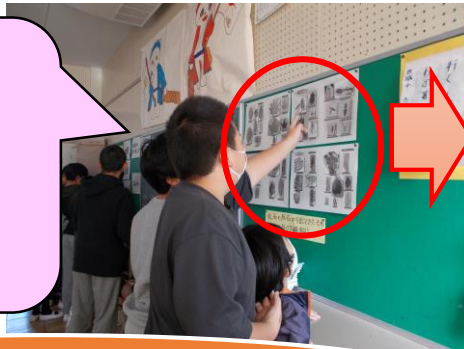
これってどうやってできた石なのかな？

葉っぱの化石が出たよ！



学習問題：化石の原石は、どのようにしてできた石だろう

葉っぱの化石がいっぱい出てきたってことは、近くに川があって流れてできたのかな…？



化石の原石から出てきた化石の種類

ピア・ラーニングの様子



堆積岩の標本



化石の原石はしま模様があって、流れる水のはたらきでできた石に似ていたよ？

火山のはたらきでできたのだったらガラスのかけらでキラキラしているはずだから…

地面の上で見つかられているから、地震で地形が変わって見つかったのかも…

発表の様子



しま模様があるという特徴から、流れる水のはたらきでできた堆積岩であると思います。

葉っぱの化石や昆虫の化石が出てきたことから、森の近くの川で流された土が重なってできた石だと考えられます。

児童のワークシート



自分の考えだけだと、自信がもてないな。



☆グループの結論

化石の原石（犯人）は、（きらきらしていない）という特ちょうから、流れる水の働きによってできた堆積岩ということが分かる。なせなら、火山によってできた火成岩ならキラキラ光っているはずだから、また、（木の葉や虫の化石）が化石の原石から出てきたことから、近くの森や山があったということが分かる。

はじめは犯人が全然わからなかったけれど、みんなの意見をまとめていくと、だいたいわかってきた。

1つのとくちょうから、いろいろなことが分かった。

（ピアラーニングを通して）みんなの意見をまとめて、化石の原石のでき方が分かってきたよ。



児童へのアンケート

今年はピア・ラーニングを取り入れた理科学習に取り組みました。これまでの理科と比べて、理科の印象は変わりましたか？

【2】 今年「ピア・ラーニング（仲間と一緒に学習する）を取り入れた理科学習」に取り組みました。これまでの理科と比べて、理科の印象は変わりましたか？



- ・ ピア・ラーニングを取り入れた理科学習に取り組むことで、理科への印象が変わり、理科が好きになったと回答する児童が見られました。
- ・ 最初に体験活動を行ってから協働学習に取り組んだことで、共通の経験をもとに話し合いができ、より学習効果が高まったと考えます。

児童の感想

最初は何でできているのか、化石はどのようにしたらできるのかが分からなかったけれど、どのようにしてできたのか、どのような場所にあるのかが分かってよかった。



みんなの力で、化石の原石のでき方を特定できた！



難しそうだと思っていたけれど、ちゃんと考えたら自分で答えを見付けられてよかった。



取り組みを終えて

- ・ ピア・ラーニングの考え方を取り入れたことで、進んで問題解決に取り組んだり、自分の考えに自信をもって発表したりする児童の姿を見ることができました。
- ・ ピア（仲間）をつくる必要がある問題設定が大切だと感じました。答えの決まった問いではなく、答えのない様々な角度から考えられる問いを解決するときこそ、ピア・ラーニングが生きる！と思います。